

～インドネシアの物流事情と具体的な計画～

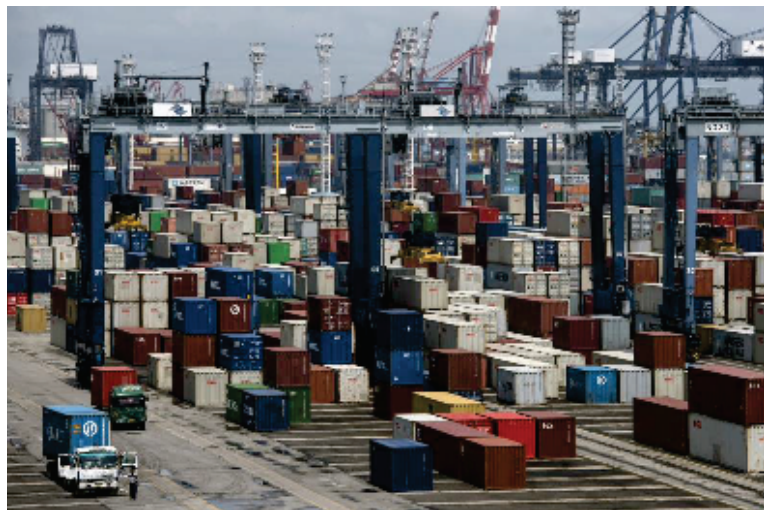
インドネシアでは、貨物量の増加により港湾および交通インフラの開発が急速に進んでいます。今号では、インドネシア最大の港であるタンジュン・プリオク港と西ジャワ州ブカシ工業団地を結ぶチカラン内陸運河、チカンベック高速道路の建設、インドネシア第2位の港であるタンジュンペラック港についてお伝えいたします。

1. タンジュン・プリオク港周辺の輸送インフラ

インドネシア西ジャワ州に位置する国内最大の港であるタンジュン・プリオク港は、国内コンテナ取扱量の約半数を占めています。近年の急激な経済成長に伴い、本港の年間コンテナ取扱量は数年のうちに取扱可能量の上限(820万TEU)に到達すると予測されています。

インドネシア政府は、タンジュン・プリオク港の混雑と物流費用の改善に向けて、日系企業も多く進出する西ジャワ州ブカシ工業団地とタンジュン・プリオク港を結ぶチカラン内陸運河の建設を進めています。本建設はインドネシアの国家戦略事業として、3兆4,000億ルピア(約257億9,500万円)を投資し、北ジャカルタ・マルンダ地区を経由する既存の運河の整備や、タンジュン・プリオク港とブカシ県チカラン、カラワン県チカンベックの工業地域まで運河を延伸する予定です。チカラン内陸運河は2021年の開通を目指しており、物流費用の20～25%削減の効果が見込まれています。

また、首都ジャカルタと西ジャワ州ブカシ工業団地を結ぶ陸路では第2チカンベック高速道路の建設が進んでいます。内陸港であるチカランドライポートへのアクセス道路も開通し、西ジャワ州の工業団地間の物流・渋滞改善が期待されています。2019年は現在の第1外環道路に加えて、第2外環道路が完成する予定で工業団地からタンジュン・プリオク港へのアクセスの利便性が向上する見込みです。



タンジュン・プリオク港 (Antara Foto/ロイター/アフロ)

2. インドネシア第2の港、タンジュン・ペラック港の施設拡充

インドネシア第2位の取扱量を誇る東ジャワ州スラバヤに位置するタンジュンペラック港は、豊富な天然資源を有する東ジャワ地域と近隣アジア諸国を結ぶ物流拠点として、国際ハブ港湾に指定されています。取扱貨物量の増加に向けて、ラモン湾多目的ターミナルと、スラバヤーグレシク高速道路から港に接続する高架道路の建設、西ヌサトゥンガラ州ロンボク島のギリマスターミナルの建設が進められています。

3. 海外物流調査の紹介

当社ではお客様の関心が高い海外諸国での物流に伴う様々なリスクに対し、輸送ルートの実地調査を実施しています。インドネシアでは、2016年に港湾設備や工業団地から首都圏までのアクセスについて現地調査を実施していますので、ご関心のある方は弊社営業担当者までお問合せください。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当者までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

(参照元)

JETRO Jakarta 「インドネシア経済・政治概況(2018年8月)」

<https://www.jetro.go.jp/world/asia/idn/>

『ペリンド2、内陸運河事業で工業団地新設へ』 NNA, ASIA 2018/8/21

<https://www.nna.jp/news/print/1802648>

『チカラン内陸港アクセス道路が開通』 NNA, ASIA 2018/8/29

<https://www.nna.jp/news/print/1806175>

『ペリンド3、港湾整備に504億円』

<https://www.nna.jp/news/print/1869022>

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html